

# 第98期 中間報告書

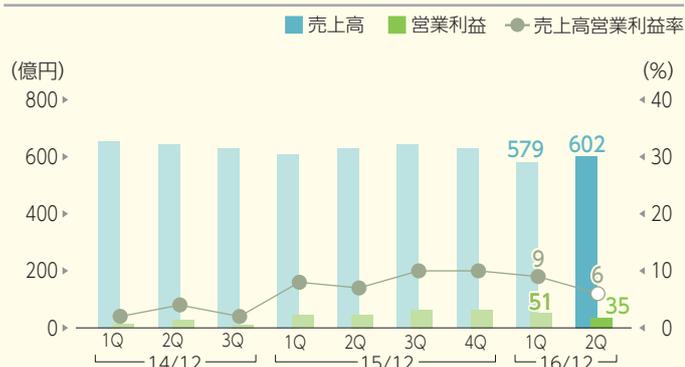
2016年1月1日 ▶ 2016年6月30日



Art by Shinichiro Aikawa

## 連結財務ハイライト (Q: 四半期)

### 四半期 売上高・営業利益・売上高営業利益率



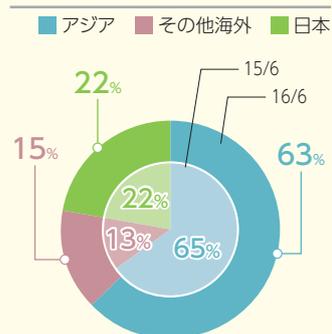
### 売上高・営業利益・売上高営業利益率



### 部門別売上高 (2Q累計)



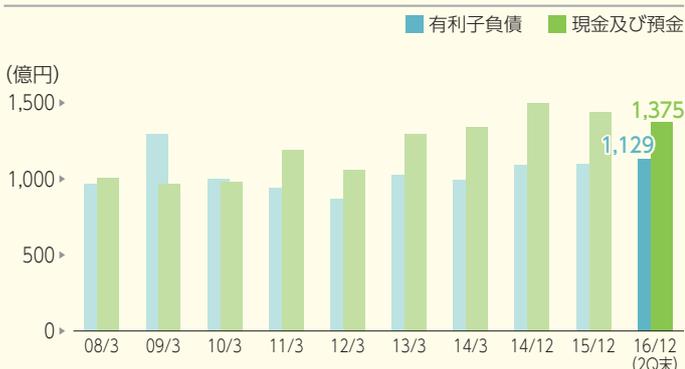
### 地域別売上比率 (2Q累計)



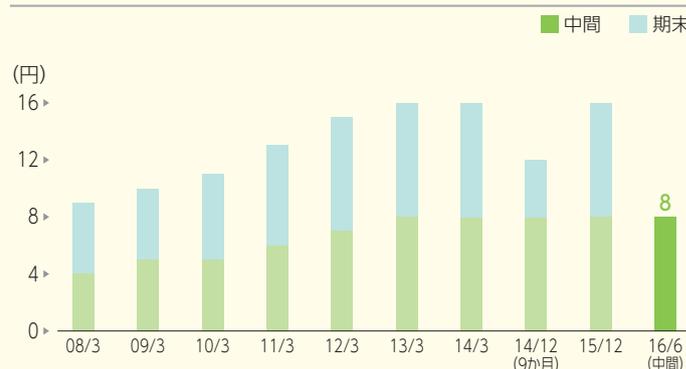
### 負債・純資産・自己資本比率



### 有利子負債・現金及び預金



### 1株当たり配当額の推移



# 成長への確かな足掛かりを築き、反転攻勢へ

社長 松本 元春



## 上半期の業績概要

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

今年度上半期(2016年1月1日～6月30日)においては、円高が急速に進み、英国のEU離脱が世界経済に不透明感を与えました。また、当社のコア事業が存立するディスプレイ市場が停滞気味であったことで、全体的に向かい風を受けた運営を強いられました。

このような中で、売上高は前年同期実績を下回りました。これは主として、液晶用ガラスの出荷が当第1四半期に弱く、上半期においては当初の計画に及ばなかったためです。しかしながら、ガラスファイバは、主力の自動車部品向け高機能樹脂用が円高の影響を受けはしたものの、順調に販売を伸ばすことができ、電子部品関連では、一部の通信インフラ市場において、光関連ガラスの売上が減少したものの、蛍光体ガラスや半導体関連の新製品などの売上増がこれを補いました。

損益面では、設備の修繕や中国子会社の立ち上げコストなどが高まりましたが、円高による輸入原料やエネルギーのコストダウンのほか、生産性改善や費用削減の取り組みが営業利益を下支えしました。一方、本業の収益性に直接影響するものではありませんが、円高の進行により、当社から中国子会社への融資に係る債権及び債務において多額の為替差損が発生し、経常利益を押し下げました。また、これらの為替影響に加え、減損に係る特別損失や税制改正に伴う税金費用が純利益を押し下げることとなりました。

## 「EGP2018」達成に向けた取り組み

液晶用ガラスは中国の需要拡大に対応

今期は、中期経営計画「EGP2018」の初年度であり、経営目標の達成に向け全社一丸となって取り組んでいます。最大のコア事業である液晶用ガラスでは、中国において溶融・成形拠点の電気硝子(廈門)と加工拠点の電気硝子(南京)を、この上半期に順調に立ち上げることができました。これらの生産能力を十分に活用し、収益力の強化に加え、成長市場である中国の需要拡大に対応してまいります。

「機能材料・その他」分野の成長に向けての取り組み

液晶用ガラスに次ぐコア事業であり、成長ドライバーとして位置づけているガラスファイバでは、PPG Industries, Inc.の欧州ガラスファイバ事業の買収を決定しました(下記参照)。これは、グローバル供給体制の強化、チョップドストランドの拡販、製品ラインアップの拡充、技術力強化の促進を狙ったものであり、ガラスファイバ事業の拡大と強化に繋げてまいります。また、医薬用管ガラスでは、当第3四半期にマレーシア子会社にて新たなコンセプトを導入した生産設備を稼働させ、供給能力を拡大します。これにより、中国などの新興国市場を中心に、積極的に拡販を進めてまいります。

なお、中間配当は1株当たり8円(前年中間期と同額)とさせていただきます。今後とも、中期経営計画の達成に向け全力で取り組みつつ、皆様への業績成果の還元も継続してまいりたいと存じます。株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## TOPICS

### PPGの欧州ガラスファイバ事業を取得

2016年6月、PPG Industries, Inc.との間で「欧州ガラス繊維事業の取得に関する覚書」を締結しました。これにより、世界有数の化学メーカーや自動車メーカーが存在し、ガラスファイバの一大需要地である欧州に事業拠点を持つこととなります。このメリットを活かし、欧州得意先との更なる関係強化により開発の質やスピードを向上させるとともに、幅広い製品を供給することで、欧州の事業を拡大してまいります。



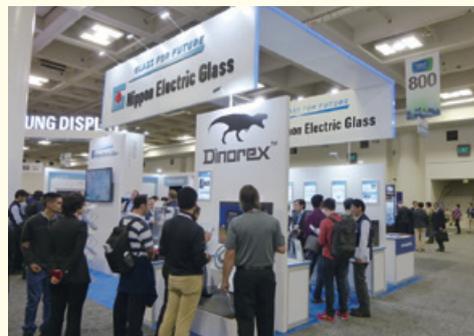
## SID Display Week 2016

2016年5月24日～26日 米国・サンフランシスコ

ディスプレイ業界で世界的に最も権威ある学会イベントの一つ、「SID Display Week 2016」の展示会に昨年に引き続き出展しました。学会には世界50か国から約7,000人が参加、200社以上の企業が出展しました。

各社ともディスプレイに関連する最新の製品や技術を展示する中、当社は、化学強化専用ガラス〈Dinorex®〉、超薄板ガラス〈G-Leaf®〉、超薄板ガラスと樹脂板のハイブリッドマテリアル〈Lamion®〉を中心に各種薄膜技術や有機EL照明用の基板ガラス、ガラスリボンなどを展示しました。

今後、市場拡大が期待される車載分野では、車内の情報表示に使用されるコントロールパネルの保護ガラスとして、AG(防眩)、AR(反射防止)、AF(防汚)コーティングを施した〈Dinorex®〉を



当社ブース



〈Dinorex®〉を使用した車のコントロールパネルのイメージ

出展したほか、薄膜技術を駆使したハーフミラーを用いたスマートルームミラーを紹介しました。スマートルームミラーは、鏡の裏に内蔵したディスプレイモニターがオンの時は、車体後部に設置したカメラからの後方映像を映し出し、オフの時は通常の鏡としての機能を果たします。ハーフミラーは、「映像」と「鏡による反射像」を選択的に映し出すキーパーツの役割を担っており、自動車のスマートルームミラーへの採用が期待されています。

〈G-Leaf®〉は、薄さ35μmのガラスロールと、それを使用したアプリケーションであるフレキシブルな有機EL照明を出展しました。

〈Lamion®〉は、樹脂を〈G-Leaf®〉でサンドイッチしたハイブリッド製品で、樹脂の軽さとガスバリア性(空気や水分の浸入を防ぐ機能)・耐熱性・透明性などガラスの優れた特性を併せ持つ高機能材料です。すでに、デジタルサイネージの保護カバーや駅(鉄道)のホームドアなどに採用されています。



〈G-Leaf®〉を用いたフレキシブルな有機EL照明



超薄板ガラス〈G-Leaf®〉

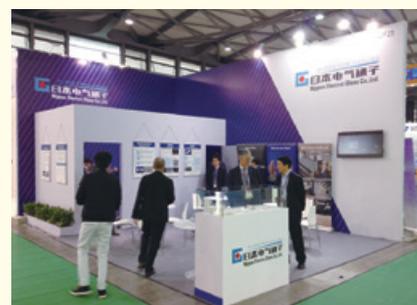
またポスターセッションでは、次世代強化ガラスに

関する発表(タイトル: Novel process for cover glass with ideal stress distribution)を行い、その内容が“Best of Display Week 2016”の一つとして、「Journal of the Society for Information Display」に掲載されました。

## Chinaplas 2016

2016年4月25日～28日 中国・上海

アジア最大級のプラスチック成型関連の展示会「Chinaplas 2016」に出展しました。今年は上海で開催され、15万人近い来場者が訪れました。当社ブースは、ガラスファイバのお得意先との商談の場として有効に活用されました。また、日本板硝子(株)と共同開発しているガラスフレークをはじめ、様々な製品を展示し、多くの来場者の関心を集めました。



# 会社概要 (2016年6月30日現在)

## 会社概要

創 立 1949年12月1日  
商 号 日本電気硝子株式会社  
本 社 滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号  
TEL 077(537)1700(代表)  
FAX 077(534)4967  
資 本 金 32,155百万円  
従 業 員 数 5,144名(連結)  
営 業 所 大阪・東京  
事 業 場 大津・滋賀高月・能登川・若狭上中・  
精密ガラス加工センター  
主要事業内容 特殊ガラス製品の製造・販売  
連結子会社 国内12社  
海外12社(マレーシア・韓国・中国・台湾等)  
ホームページ <http://www.neg.co.jp/>

## 取締役および監査役/執行役員

取締役会長 (代表取締役)	有 岡 雅 行	社長執行役員	松 本 元 春
社 長 (代表取締役)	松 本 元 春	常務執行役員	筈 本 雅 博 竹 内 宏 和 佐 伯 彰 久 津 田 幸 一 山 崎 博 樹
取 締 役	筈 本 雅 博 竹 内 宏 和 佐 伯 彰 久 津 田 幸 一 山 崎 博 樹 小 田 野 純 丸 ※1 森 修 一 ※1	執 行 役 員	大 浴 成 一 青 木 重 明 後 藤 茂 金 井 敏 正 前 中 祐 輔 岸 本 曉 生 中 村 憲 清 竹 内 清 秀 中 川 邦 広 野 村 博 明 久 保 正 也 松 宮 晴 樹 加 角 堃 智 角 見 昌 昭
常勤監査役	来 住 富 治 夫 應 治 雅 彦		
監 査 役	石 井 和 也 ※2 木 村 圭 二 郎 ※2		

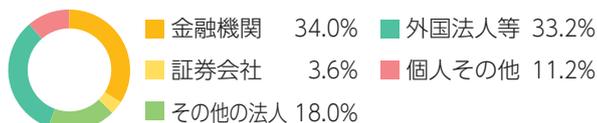
※1 社外取締役  
※2 社外監査役

## 株式の状況 (2016年6月30日現在)

### 株式に関する事項

発行可能株式総数 1,200,000,000株  
発行済株式の総数 497,616,234株  
単元株式数 1,000株  
株主数 14,124名

### 所有者別株式分布状況



### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ニプロ株式会社	68,335	13.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	34,624	7.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	24,956	5.0
資産管理サービス信託銀行株式会社(投信受入担保口)	19,495	3.9
THE BANK OF NEW YORK 133524	12,614	2.5
株式会社滋賀銀行	8,089	1.6
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	7,662	1.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	6,488	1.3
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	5,427	1.1
PICTET AND CIE(EUROPE)SA, LUXEMBOURG REF:UCITS	5,332	1.1

## 株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで  
定時株主総会 毎年3月  
基準日 定時株主総会関係・期末配当金支払関係  
毎年12月31日  
中間配当金支払関係  
毎年6月30日  
上場証券取引所 東京(市場第一部)  
株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社証券代行部  
(郵便物送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)  
三井住友信託銀行株式会社証券代行部  
(電話照会先) ☎0120-782-031  
(インターネットURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>  
公告の方法 電子公告(<http://www.neg.co.jp/>)  
ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

### 株式に関するお問い合わせ先

内容	お問い合わせ先
支払期間経過後の配当金について 特別口座に関する事項(※1) (特別口座から一般口座への振替請求等)	三井住友信託銀行(株) ☎0120-782-031
氏名・住所等の変更 配当金の受領方法(振込先等)の指定 単元未満株式の買取・買増請求(※2)	口座を開設されている証券会社等 * 口座を開設されていない方は 上記三井住友信託銀行(株)

※1 特別口座のまま売買等を行うことはできず、一般口座への振替えが必要で。

※2 当社での買取りまたは1単元(1,000株)に不足する数の株式を当社から買増することができます。  
なお、当社での手続きに係る費用は無料です。